

## ニュース・年間行事

### ■ 2022年

#### ○ 12月7日～9日「国際粉体工業展 東京 2022」(於: 東京ビッグサイト(東京都/有明))に出展

「粉体技術連峰」をテーマとして、新製品の動的粒子像分析装置パーシェアナライザ® (PAS) を含む測定機器を中心とした5機種、粉体特性評価装置パウダテスタ® (PT-X)、湿式ふるい分け装置ヴィブレット® (VBL)、小規模研究開発用卓上ラボ機ピコライン™ (Picoline™)、乾式粒子複合化装置ノビルタ®ミニ (NOB-MINI) の実機展示を行いました。粉碎・分級・混合・粒子設計・乾燥・測定機器など、多数のパネルも展示し、さらに、エンジニアリング、メンテナンスサービスや受託加工のパネル紹介など、当社のトータルソリューションをアピールできる機会となりました。

新たな試みである各装置3DモデルAR (Augmented Reality) 体験では、タブレットを通して単機から大型プラントまで、当社機器が目の前にあるかのようなAR体験ができ、その映像を大画面モニターにて映し出しました。また、HOSOKAWA GEN4® RM のPR映像を大画面モニターで紹介するなど前面にアピールし、来場者の目を引くコンテンツとなりました。

製品技術説明会では、9日にICTデジタル推進事業部の笹辺事業部長が「トレンドワードと粉体プロセス」をテーマに、IIoT技術であるHOSOKAWA GEN4® RM について発表を行いました。また同日、開発室の村田室長が「動的粒子像分析装置パーシェアナライザ® の紹介」をテーマに、新製品であるパーシェアナライザ® について、オートサンプラの紹介と併せて発表を行いました。



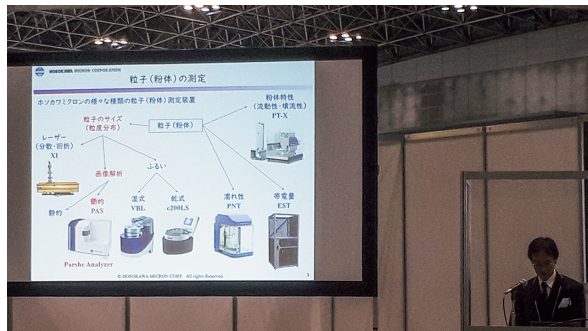
「国際粉体工業展 東京 2022」での展示風景



AR体験 & GEN4 RM PR映像



製品技術説明会



## ■2023年

## ○2月1日「枚方市立第一中学校キャリアアッププロジェクト」に参加

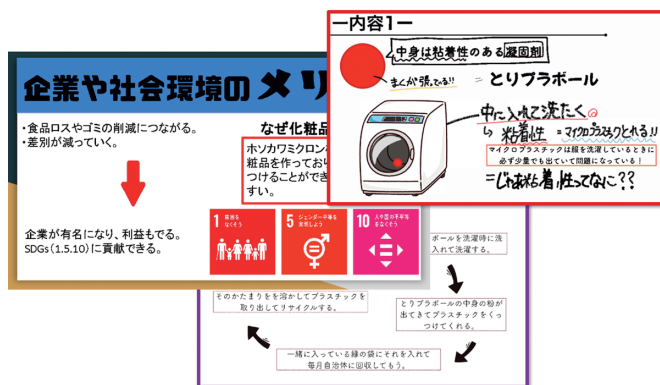
大阪府枚方市立第一中学校の「キャリアアッププロジェクト～SDGsを柱とした未来創造型ワークショップ～」に参加しました。当該ワークショップは、生徒たちが企業の従業員に成り代わり、企業から提示されたミッション（SDGs関係の課題）解決



生徒と企画を考える様子

に向け、企画を考え、プレゼン資料を作成し、発表するというものです。

当社が提示したミッションは、『これまでにない、社会課題解決に貢献する「粉」を考えよ!』で、生徒それぞれ独自の視点で考えた企画を、写真や資料を駆使して分かりやすく発表してくれました。考え出された企画は非常にユニークかつ面白いものばかりで、当社のSDGsに対する取り組みにも活かして行ければと考えております。



生徒作成プレゼン資料抜粋

## ○2月17日「第7回大学生対抗IRプレゼンコンテスト」(於：KABUTO ONE (東京都/中央区)に参加

「第7回大学生対抗IRプレゼンコンテスト」(主催：学生投資連合USIC、後援：株式会社日本取引所グループ、公益社団法人日本アナリスト協会、複眼経済塾、一般社団法人日本IR協議会)に、協賛上場企業として参加しました。

本大会は、各大学の投資サークルが担当する上場

企業の成長の魅力を調査・分析を踏まえてIRプレゼンを行い、上位校を競うもので、当社のプレゼンは明治大学の公認投資サークルが担当しました。

明治大学×当社のプレゼンは、ニッチで複雑な粉体業界における当社のビジネスについて分かりやすくまとめていたことや、実際に国際粉体工業展2022へ足を運んで他社との比較を行った点などが審査員に高く評価され、見事準優勝に輝きました。



「第7回大学生対抗IRプレゼンコンテスト」でのプレゼンの様子



準優勝を受賞

○4月12日 ホソカワ受託加工株式会社新工場設立

2020年10月にホソカワミクロンの受託加工部門を分割会社として新設されたホソカワ受託加工(株)は、お客様にとっては高額な設備投資をせず、必要とする微粉体製品を得ることができるため、生産のアウトソーシング化や、需要動向に合わせた生産調整弁としての役割、新製品開発の少量試作製作など、幅広いニーズにお応えしています。この度、昨今の受託加工需要の増加に対応するために新工場（つくば和台工場）を設立しました。新工場が稼働すれば、現工場（つくば篠崎工場）と合わせて、ホソカワ受託加工(株)の生産能力は現在の1.5倍となり、事業規

模の拡大が期待されます。将来的にはSDGs達成に向け、省エネ対応の最新設備を導入して自動化を図り、人と環境に配慮した24時間稼働の工場建設に向けた検討も進めてまいります。

〈新工場の概要〉

- 【工場名称】 ホソカワ受託加工株式会社つくば和台工場
- 【所在地】 茨城県つくば市和台 27-2
- 【建屋】 事務棟 2階建 1棟 加工棟平屋 1棟
- 【敷地面積】 約 22,240 m<sup>2</sup>
- 【延床面積】 約 2,856 m<sup>2</sup>
- 【稼働日】 2023年10月予定



ホソカワ受託加工株式会社つくば和台工場の事務棟玄関



工場外観

○5月17日～19日「第11回化粧品産業技術展 CITE Japan 2023」(於：パシフィコ横浜(横浜市/西区))に出展

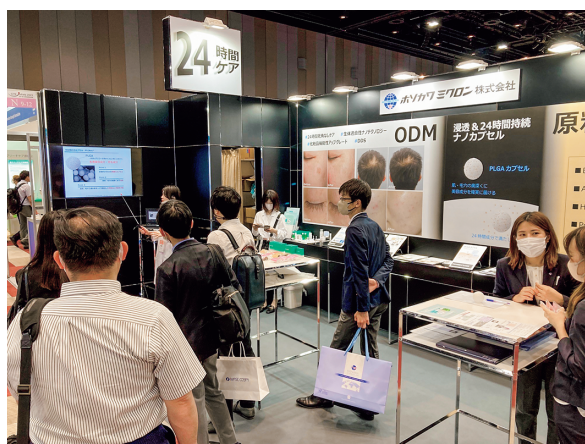
本展示会は2年に一度開催される化粧品業界では最大の展示・技術発表会で、化粧品原料、製造技術の最新情報が一堂に会することから、多くの業界関係者、特に技術者が中心に来場されます。当社は、汎用性を高めた4種の「PLGA コンプレックス原料」(①保湿②エイジング③ニキビ④育毛)を中心に、カプセル技術を活用した凍結乾燥コスメ、育毛剤、まつ毛美容液、スキンケアパウダーなどのサンプル配布、2枠の技術発表、ブース内での技術プレゼン(4～5回/日)も実施し、競争力・訴求力あるODMの提案を行いました。

〈技術発表会タイトル〉

- ◆24時間死角なしスキンケア! 「浸透持続型 カプセル」の紹介〈最新【高保湿・抗老化】カプセル & カスタム例【抗老化】〉
- ◆毛穴直撃! 「浸透持続型カプセル」が可能にするひとつ上をいく育毛剤の開発

セル」の紹介〈最新【高保湿・抗老化】カプセル & カスタム例【抗老化】〉

- ◆毛穴直撃! 「浸透持続型カプセル」が可能にするひとつ上をいく育毛剤の開発



「CITE Japan 2023」での展示風景

○7月5～7日「第25回インターフェックス—医薬品・化粧品 製造展」(於：東京ビッグサイト(東京都/有明)に出展)

テーマに「研究開発から生産スケールまで最高峰の粉体技術を提供します。」を設け、測定機として、新製品の動的粒子像分析装置パーシェアナライザ®(PAS)、粉体特性評価装置パウダテスタ®(PT-X)の2機種を、またラボ機として、小規模研究開発用卓上ラボ機ピコライン™(Picoline™)、乾式粒子複合化装置ノビルタ®ミニ(NOB-MINI)の2機種の実機展示を行いました。その他、ペネトアナライザ®(PNT-N)、封じ込め設備、メンテナンスサービスのパ



「インターフェックスジャパン東京2023」での展示風景

ネル展示を行い、研究開発で使用するラボ機から作業者保護の封じ込め設備まで、当社の幅広いトータルエンジニアリングをアピールできる機会となりました。

2021年10月に発足した「医薬測定事業部」として初めて臨んだインターフェックスであり、他にはない独自の製品群の展示により、来場者の目を強く引き付けました。

特に、新製品であるパーシェアナライザ®は、粒子の撮影画像から高精度な粒子形状の測定が可能である点を紹介しました。来場者の反応は上々で、とりわけ医薬品の溶出性に影響を及ぼす粒子形状が話題とされる医薬分野に展開していくための素晴らしい情報交換の場となりました。



○9月4日「第55回粉体工学に関する講演討論会」(於：東京ガーデンパレス(東京都文京区))の開催

当講演討論会は、粉体技術談話会の企画のもとに公益財団法人ホソカワ粉体工学振興財団(理事長細川悦男)が主催して開催されるもので、「持続可能な社会に貢献する粉体技術」をテーマとして、粉体工学・粉体技術の基礎と応用の観点から、3件のKONA賞受賞講演を含む7件の講演がありました。



「第55回粉体工学に関する講演討論会」の講演風景

今回も、昨年度に引き続き、会場とオンラインでのハイブリッド開催となりました。講演会の後、今回4年振りに懇親会が催され、終始和やかな雰囲気の中で、講師と来場者との間で有意義な交流が行われました。本年の会場への来場者数は100名を超え、会場は満杯状態となり、オンラインを合わせると240名近くの参加がありました。次回(第56回)は、大阪での開催を予定しております。

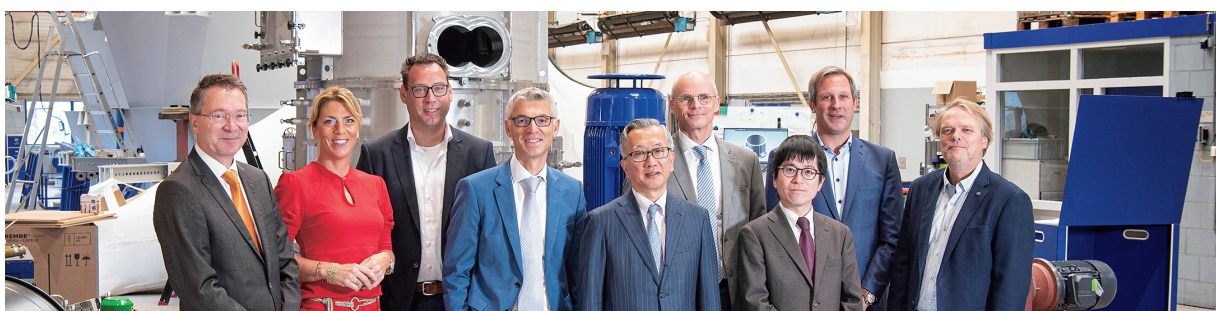


KONA賞贈呈式風景

### ○9月13日 日本大使ホソカワミクロン B.V. を訪問 (於：オランダ／ドゥーティンヘム)

南博駐オランダ日本大使がオランダのドゥーティンヘムにある、今年創立 100 周年を迎えたホソカワミクロン B.V. を訪問しました。この訪問の主な目的は、オランダ東部の製造業について包括的な理解を深めることでした。訪問者一行は、Christophe Krug 代表取締役と Berthram Mak 営業企画部長によって暖かく歓迎され、会社の活動に関するプレゼンテーションと施設のガイドツアーが行われまし

た。訪問中の議論は、技術革新、代替タンパク質、エネルギー転換、そしてホソカワのプロセスソリューションの役割に焦点が当てられ、またオランダ東部の戦略的重要性と Oost NL（地元の官民企業支援団体）との協力も強調されました。南大使のホソカワミクロン B.V. への訪問は、国際的な協力を促進するだけでなく、産業の将来を形作る上でのイノベーションと協力の極めて重要な役割を強調しました。見識共有とアイデア交換は、先進技術分野での日本とオランダ間の強固な結びつきを示すものとなりました。



ホソカワミクロン B.V. を訪問した日本大使一行と Oost NL 代表団

### ○9月13日～14日「第4回 国際ホソカワ粉体工学シンポジウム」(於：Augsburg/Germany (ドイツ／アウクスブルク)) の開催

「第4回国際ホソカワ粉体工学シンポジウム」が、ホソカワ粉体工学振興財団による主催、当財団が発行している学術誌 KONA 誌の欧州・アフリカブロックの事務局である KONA Europe e.V. 並びにホソカワアルピネ (HAAG: ドイツ) の共催・後援により、ドイツのアウクスブルク市にて開催され、「機能性粒子の持続可能な生産」をテーマに、学術研究者に

よる概説と共に様々な企業とのコラボレーションによる 8 件の講演が行われました。本シンポジウムは、主催地のドイツを始めとして、オランダやリトアニア等様々な国から約 60 名の参加者があり、講演会前日に開催された歓迎セレモニーでは、世界の粉体工業の代表的な企業、ホソカワアルピネ AG 社のテストセンターと生産ラインの見学が行われ、その後アウクスブルク市内ツアーとドイツビール工場に隣接しているビアホールでドイツビールを堪能しながら、国際交流もはかられました。



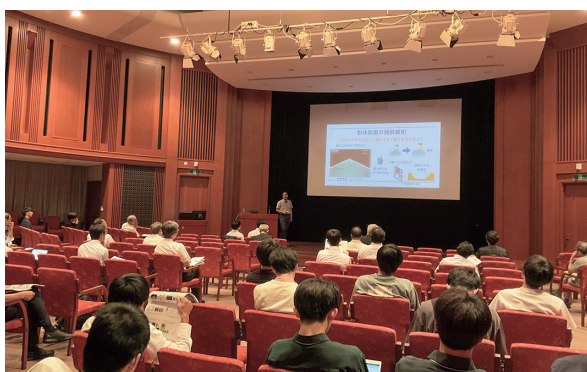
「第4回国際ホソカワ粉体工学シンポジウム」の講演風景



アウクスブルク (ドイツ) 市街風景

### ○9月19日「第28回ホソカワ粉体工学シンポジウム」 (於：大阪大学銀杏会館(吹田市))の開催

「第28回ホソカワ粉体工学シンポジウム」は、「粉体技術談話会」の主催で、(公財)ホソカワ粉体工学振興財団と大阪大学大学院工学研究科の共催で開催されました。本シンポジウムは、「様々な分野に拡がり行く粉体工学」をテーマに、各研究分野の代表的な研究者による最新の研究成果を発表する5件の講演のほか、本シンポジウムを後援しているホソ



「第28回ホソカワ粉体工学シンポジウム」の講演風景

カワミクロンが1世紀あまりにわたり進化し続ける粉体処理の技術・製品も説明されました。講演会には約60名の参加があり、それぞれの講演について積極的にいくつかの質問があり、盛況な会となりました。また、ロビーには、ホソカワ財団が出版している書籍と雑誌が展示され、財団ならびにホソカワミクロンの紹介ポスターも掲示されました。講演会の後、懇親会が開催され、終始和やかな雰囲気の中で、各講師と来場者の間で有意義な交流が行われました。



懇親会風景

### ○9月26日～28日 POWTECH 2023 (於：Exhibition Centre Nuremberg (ドイツ/ニュルンベルク))に出展

ホソカワミクロングループの欧州グループより4社(ホソカワアルピネ(HAAG:ドイツ)、ホソカワミクロンB.V.(HMBV:オランダ)、ホソカワミクロンLtd.(HML:イギリス)と、ホソカワソリッドソリューションズ(HSS:ドイツ))が、9月26-28日にドイツ・ニュルンベルクで開催された、粉体技術分野で世界最大級の国際見本市POWTECH 2023に出展しました。今回の展示では、未来志向のテクノロジーとソリューションを提供し、業界関係者に革新的な製品を紹介しました。具体的には、リチウムイオンバッテリーの製造とリサイクルに焦点を当て、国際プロジェクトチームを結成し、「ON™」という新ブランドと専用のロゴ、ウェブサイト<<https://www.on-hosokawa.com>>を立ち上げ、エネルギーパフォーマンス材料の製造システム向けの新製品ラインとリサイクルプロセスを発表しまし

た。さらに、未来に向けたリグニン(天然原料)の産業利用や代替プロテインソースの開発など、将来を見越したアプリケーションのソリューションも披露されました。特に、ホソカワアルピネが開発した新型スパイラルジェットミル「Alpine Microburst™(AMB)」は予備破碎なしで粗いまたは繊維状の材料の超微粉砕ができるため、コストパフォーマンスを重視する業界関係者から注目され、とりわけ機能的食品、化粧品、医薬品などへの応用が期待されます。



「POWTECH2023」での展示風景